

十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
〒080 帯広市東1条南5丁目
電話=編集②2121、広告
③2323、総務・販売④2222
©十勝毎日新聞社 1988

進め宇宙開発

スペースポルト調査団同行記

.....3

南米の仏領ギアナ。フランス宇宙センター「CNES」(クネス)のロケット打ち上げ施設、ギアナ・スペースセンターがある。ギアナのイール・ド・デュアール(悪魔島)が十数年前に上陸された。故ステイブ・マククイン主演映画「パピヨン」の舞台。この国についてはそんな知識しか持ち合わせていなかった。調査団全員が訪れるのは初めてで、視察するのを最も期待していた地だ。日本人でギアナに宿泊したのは十人もいないはずと日本旅行の添乗員、川越岩雄さん。入国するたびに日本をたつ二週間前、わざわざ東京に真熱病の予防接種のため出かけたのを思い出した。それだけに首都のギアナのホテルから約六十キロ離れたスペースセンターのあるクール市に向かう途中、両側に広がるマング

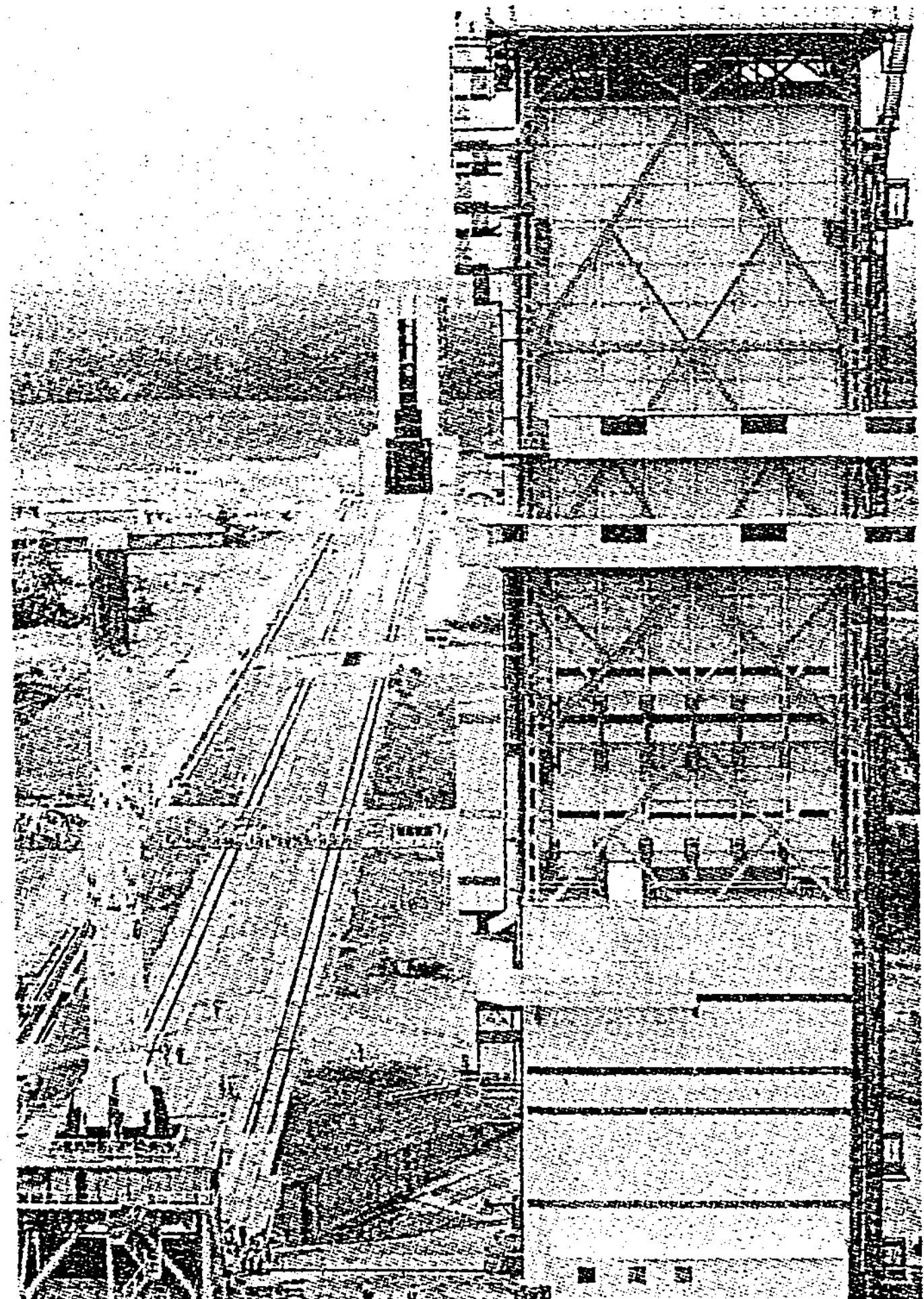
ギアナ・センター

スペースポルト調査団同行記
スペースポルトの概要を紹介するフィルムを見る。フランスはサハラ砂漠にロケット射場を持つていたが、アルジェリアの独立で、一九六四年からここを整備、四年後のロケットを打ち上げている。主な施設は発射台が三基(うち一基

大樹町と似た立地 作業システムなど参考に

は建設中)と管制室など。ロケットの製造、整備はフランスで行い、船で飛行機で運ぶ。ギアナの工場は組み立てた約六ヶ月の滑走路の基礎工事は六月から始まっている。「打ち上げ基地になせギアナを選んだのか」が調査団に

は建設中)と管制室など。ロケットの製造、整備はフランスで行い、船で飛行機で運ぶ。ギアナの工場は組み立てた約六ヶ月の滑走路の基礎工事は六月から始まっている。「打ち上げ基地になせギアナを選んだのか」が調査団に



ギアナ宇宙センターの打ち上げ施設



コミュニケーションセンターでエルメスの模型に見るメンバー

に周りの壁が四、五十センチ分厚い「打ち上げ時には二百五十人が張りつく」と担当者。続いて高さ八十センチの組立工場。十月二十七日のブレンII号の打ち上げに向けて機械の整備点検を続けている最中。切り、見等に入った。初めて案内されたのは打ち上げ前の軌道管制室。発射台での模様を伝えるテレビカメラが七台、天井から下がっており、コンピュターなどが据え付けられていて、防衛用のため

想を推進する開発計画研究所の西尾光夫地域環境研究室長は「海に面している点、滑走路の規模や向きなど北海道の構想はヨーロッパのプランに似ていると思う。それに北海道も最初のころはこのようにロケットを船や飛行機で運んでくるように考えた方がいいのかも。各施設をシステム化する手法など大変参考になった」と目を細めた。

ギアナスペースセンターの職員は約千人。打ち上げ時にはさらに二百五十人が加わっている。クール市の人口は二千年前六百人だったのが、現在は約一万二千人にも膨れ上がっている。これから五十年計画で欧州版スペースシャトル「エルメス」を運ぶための国道改修工事やエンジエンテストセンターの建設、病院の整備なども予定され、地域全体が近代的な都市に変わらうとしている。

十勝にスペースポルトが実現すれば、どのように変わっていくだろうか。クール市の今の姿が十年先の十勝にどう映えるか。

(近藤 政晴記者)